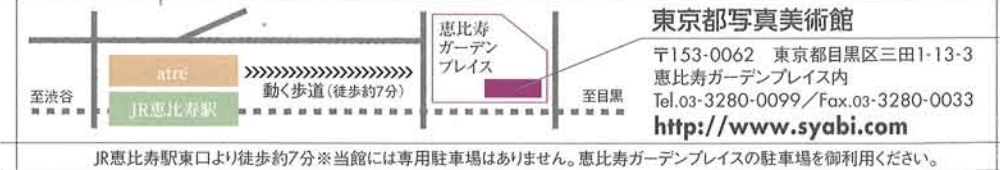


SCHEDULE

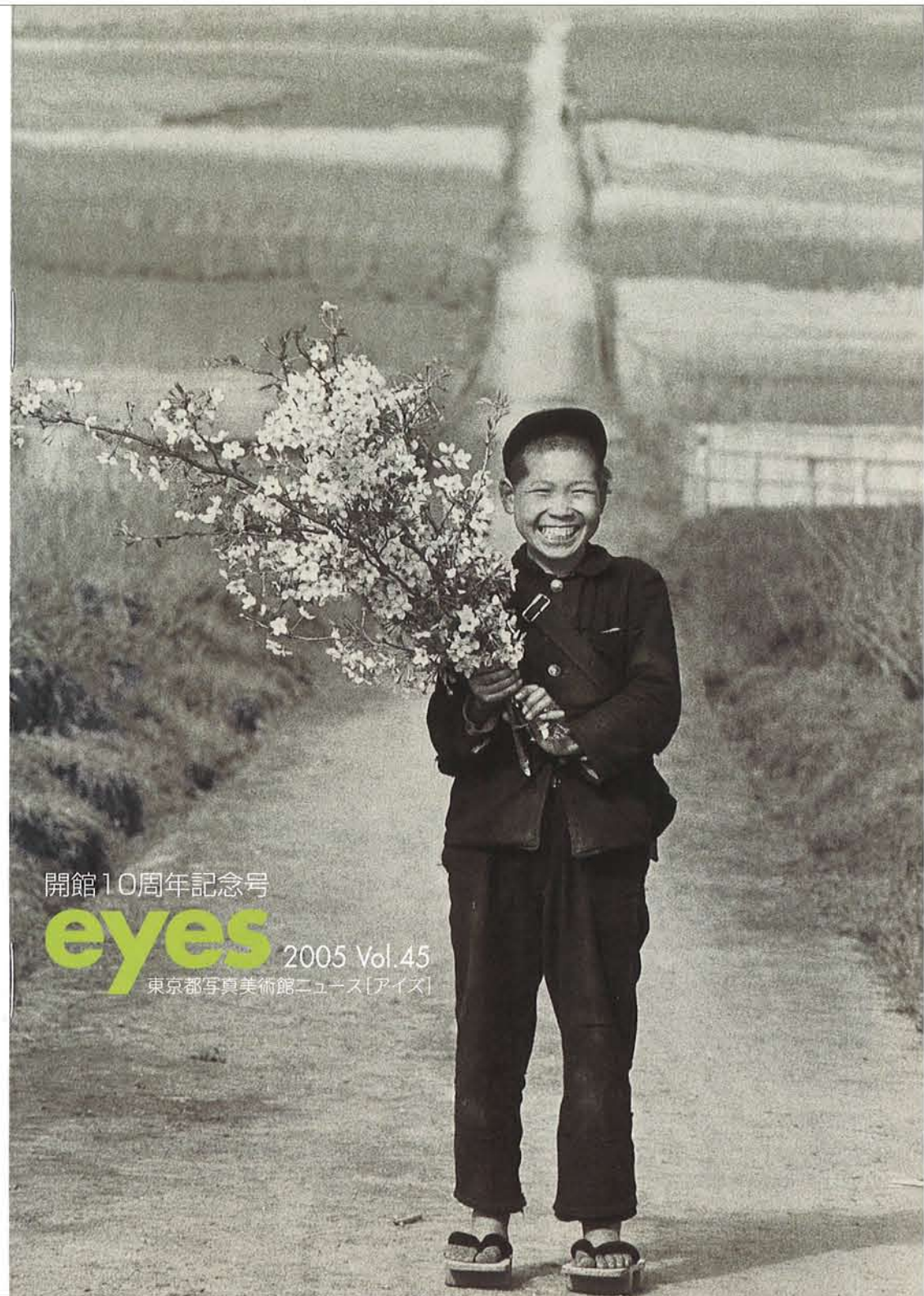
東京都写真美術館展覧会スケジュール

2005	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
1	日本の新進作家Vol.3- 新花論 ～2月6日(日)		クレア・ランガン 「フィルム・トリロジー」展 ～1月30日(日)	ネオ・ファンタジア 1月2日(日)～1月28日(金)
2	第5回上野彦馬賞展 2月11日(金/祝)～ 2月19日(土)	「HEIAN 戸田正寿作品展」 1月21日(金) ～2月19日(土)	 GLOBAL MEDIA 2005 2月5日(土)～3月13日(日)	 サンサーラ 1月29日(土)～ 2月20日(日)
文化庁メディア芸術祭 2月25日(金)～3月6日(日)				
3	第33回 APA公募展 3月12日(土)～3月27日(日)			 天上草原 3月12日(土)～4月22日(金)
4	 開館10周年特別企画展 「写真はものの見方を どのように変えてきたか」 第1部～誕生～ 4月2日(土)～5月22日(日)	小林伸一郎写真展 BUILDING THE CHANEL LUMIÈRE TOWER 3月12日(土)～4月17日(日)	愛知万博関連展 「Ten Views of Spain」 3月19日(土)～4月24日(日)	
5	 開館10周年特別企画展 「写真はものの見方を どのように変えてきたか」 第2部～創造～ 5月28日(土)～7月17日(日)	生誕百年記念 ナチュラリスト・ 田淵行男の世界 4月23日(土)～6月12日(日)	 開館10周年特別企画映像展 超ヴィジュアルー 映像・知覚の未来学 Visualize - The history and the futurescape of visual media 4月30日(土)～6月19日(日)	※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
6		世界報道写真展2005 6月18日(土)～ 7月31日(日)		※スケジュール・展覧会タイト ルは予告なく変更される場合 があります。 最新のスケジュール詳細は ホームページをご覧ください。

ご利用案内	●休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日) ●開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
全館セット割引 チケットの販売	お得な割引料金で展覧会をご覧いただけるセット割引チケットを販売しております。 詳しくはチケット売り場でおたずねください。

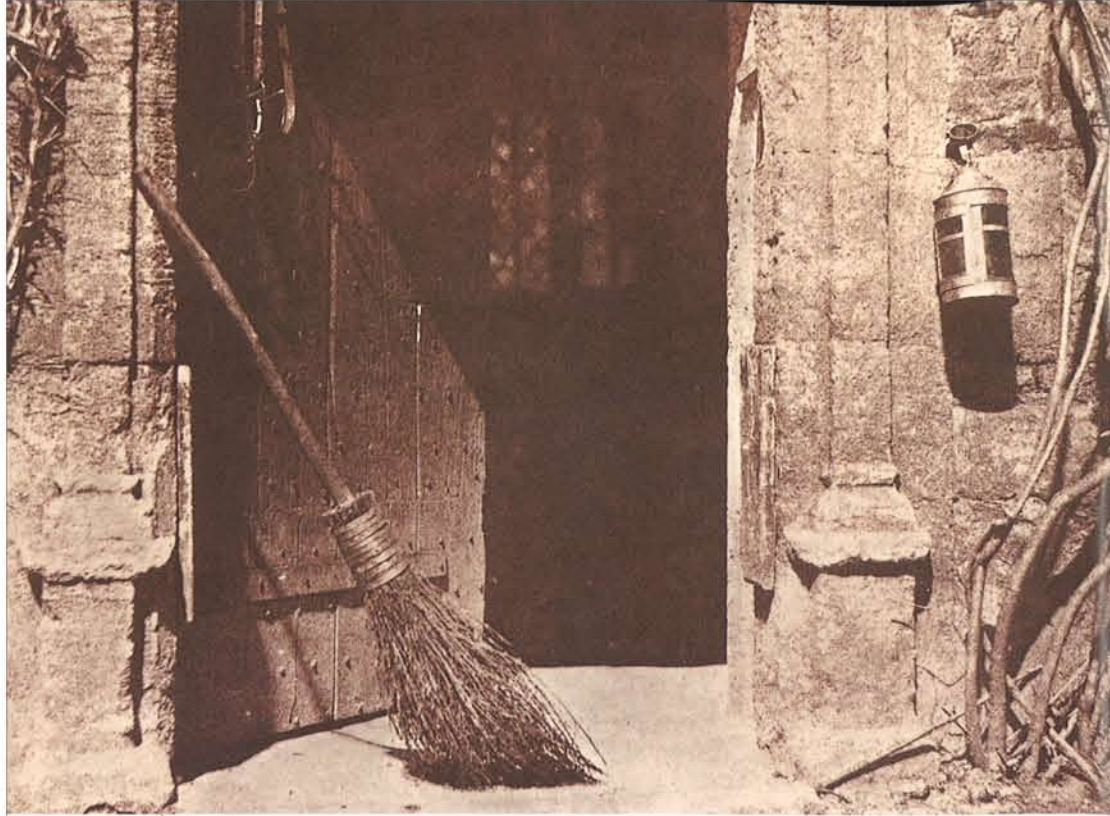


※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則的に消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ05」45号 ●発行日:2005年1月13日 / 企画・編集:東京都写真美術館学芸課 普及係 ●印刷・製本:
JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2005 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



開館10周年記念号
eyes 2005 Vol.45
東京都写真美術館ニュース「アイズ」





TALBOT, William Henry Fox ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット
世界初の写真集「The Pencil of Nature (自然の鉛筆)」より The Open Door (開いた扉) 1844-1846

Topics

開館10周年特別企画展

「写真はものの見方をどのように変えてきたか」

写真が私たち人間の生活や思考に与えたもの。それはいったいどんなものであったのでしょうか？
東京都写真美術館開館10周年特別企画展の本展では、
写真の発明から現在に至るまでの歴史を4つの構成で繙いていきます。

1988年から15年にわたって続けられてきた当館のコレクションには、古今東西の優れた写真作品が23,000点以上収蔵されています。その特徴として、約70%が日本人による作品であるということがあげられます。これは幕末に写真術が渡来してから今日に至るまでの日本の写真の歴史と現在を体系的にたどることができるということでもあります。そ

れと同時に、世界の写真史を理解するために海外の美術館に対しても誇りうる写真史上重要な欧米の作品も数多く収蔵しています。今回の連続4回にわたる写真展は写真が私たち人間の生活や思考にどのような役割を果たし、影響を与えてきたかという切り口で、東京都写真美術館がこれまで収集してきた作品の魅力をご紹介します。

eyes

01 | Topics | Special Interview

第1部「誕生」

ルネサンス期、自然科学への興味の高まりから【カメラ・オブスクラ】の諸原理が衆目を集めました。色彩が鮮やかに照射される映像は世界を瞳で把握する手段として、第一の視覚【裸眼】に次ぐ第二の視覚と呼べるほど西欧の社会に浸透しました。

第三の視覚【フォトグラフ】は19世紀前半のヨーロッパに誕生しました。それは、これまでとは全く異なった視覚経験を人間にもたらすことになりました。人物、風景だけでなく、微小なものから極大なものまで、ダゲレオタイプの銀板、ダイレクト・プロセスによる紙など、さまざまな発明によって世界に定着していったのです。これまでの映像写真が「動く」物でしかなかったのに対して、【フォトグラフ】の映像は「止まった」ものでした。これによって、これまで裸眼とカメラ・オブスクラで動画画像しか捉えられなかった人間の視覚は大きく変わっていきました。1844年～46年にウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット(英)が出版した世界初の写真集「自然の鉛筆(The Pencil of Nature)」には建物やレース編み、植物、演出を加えたアート作品が収められ、写真によって様々なことが出来るようになったということが雄弁に語られています。また、今でこそ自分自身の画像(肖像)を持つことは当たり前前の時代になりましたが、当時は王様や貴族のみが持てる貴重なものでした。

それが写真の発明によって、一般にもどんどん普及するようになったわけです。

“見知らぬ国の風景をこの目で見られる”ということもあるでしょう。まさに「世界を手の手中にできる時代」になりました。一方、日本では、1848年に「写真器」が輸入された後、1854年にはペリーとともに初めて写真師が訪れ、多くのイメージ・ハンターが幕末の日本へと渡航します。やがて江戸や横浜、長崎などを中心に日本人写真師が登場します。当時、「ポトガラヒー」(photography)と呼ばれた日本の写真は、肖像、風俗、風景とさまざまに展開し独自の写真史を歩みはじめます。

第1部では写真術が渡来した日本も含め、19世紀の写真世界がどのようなものであったかを、技術や社会との関係を通じて探っていきます。



*1

第2部「創造」

19世紀後半に成立する近代的市民社会は、20世紀には高度な資本主義経済の発達を背景に大衆社会へと変容していきます。写真もまた市民社会の中において「芸術」としての地位を次第に獲得し、さらに20世紀の二つの大戦を経て都市の光と闇を映し出すメディアとして確立していきました。



*2

表紙 / 植田 正治「童歴」より 1955-70年
開館10周年特別企画「植田正治展」
2005年12月17日(土)～2006年2月5日(土)開催

*1 / STILLFRIED & ANDERSEN スティルフリード&アンダーセン
「Views & Costumes of Japan」より Portrait of Woman (女性像) 1877-85年

*2 / EMERSON, Peter Henry 「沼地からの帰路」1886年

02 |

eyes

しかし「記憶をもった鏡」と呼ばれ、人々に驚きを持って迎えられた写真が、「芸術」の地位を獲得するには多くの論争がありました。19世紀後半、アマチュア写真家たちを中心にピクトリアリズム(絵画)主義を標榜する芸術写真が成立しました。しかし、20世紀初めになると、ピクトリアリズム的な写真は徐々に衰退し、写真だけが可能にする近代的な写真表現の追及が始まります。

写真技術の発達、人間の視覚以上の現実を私たちの前に提示しました。精密描写や顕微鏡写真などは写真が「機械の眼」であることを人々に強く認識させることとなります。第2部では、写真がその独自の「芸術」と「表現」をどのように発展させていくか、19世紀後半から1930年代までの写真表現の変遷でたどっていきます。



*3

第3部「再生」

第3部では、写真家という存在が時代と社会の中をいかに生きたかをテーマとします。それを探るために、私たちにとって忘れてはならない太平洋戦争という時代を生き抜いた写真家たちに焦点を合わせ、彼らの軌跡を列伝的にたどります。1930年代前半に成立した報道写真は、戦争が激しくなるに従い軍国主義の波の中に飲み込まれていきました。国策のプロパガンダに協力しながらも、報道写真家たちは自分が写真家として生きるべき現実を発見しようと模索します。また、当時花開いたモダンな造形や幻想的なビジョンを追求める前衛的な写真表現は、戦争により弾圧を受けます。

芸術表現を実現していた写真家たちは肩身の狭い思いをするばかりか、カメラを持つことすら許されない時代となってしまったのです。

第3部は、このような戦争という時代を生きた写真家たちの中で、いったい何が変わり、何が変わらなかったのかを写真作品を通して見つめようとするものです。それをたどってみたとき、私たちはなぜ、カメラを持って写真を撮るのかという、もっとも本質的な問いかけをすることになるのではないのでしょうか。



*4

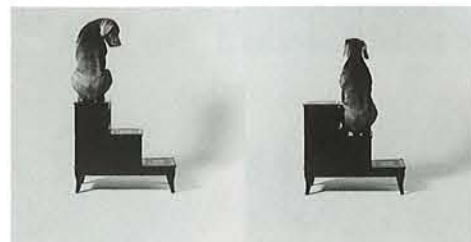
第4部「混沌」

第4部では1970年代以降の写真表現を通して、美術館と写真の関係性を考えます。

今回、4つの展覧会で展示される当館のコレクション作品はすべてオリジナル・プリントです。この言葉が写真に本格的に適用されるようになったのは1970年代に入ってからで、日本では80年代以降といっていよいでしょう。そこには美術館が写真のコレクションを本格的に始めることや、ギャラリーやオークションといった市場が形成されるということでもあります。このような写真を取り巻く新たな社会環境は写真家たちの生き方、そして写真表現そのものにも決定的な影響を与えることになっていきます。ここでは、多様な写真表現を通して、混沌に満ちた写真の現在を探ります。

写真の形態が変容してきた今日、日常では触れることのできない当館のコレクションを通じて、写真の歴史をたどってみませんか? それは、私たち自身のものの見方のルーツを知る絶好の機会でもあるはずです。

(2004年12月 東京都写真美術館専門調査員 金子 隆一)



*5



*6

ごあいさつ

世界に数少ない写真専門美術館が恵比寿ガーデンプレイスに開館して今年には十周年になる。もっとも準備期間として1990年から仮開館していたから、生まれおちてからの実年齢は15才、やっど青年期になったばかりだ。その節目に第4代館長として立ち合うのは何と幸せなことか。これからますます社会の役に立つ立派な成人期を夢見ている。美術館の基本的な機能として、文化の継承、展示そして未来への創造があるとすれば、この十周年には、当館のコレクションを4つのテーマに分けて皆さんへお披露目をしたい。そして次の十年へのステップの踊り場となる一年を皆さんとともにたのしみたい。



東京都写真美術館館長
福原 義春

開館10周年特別企画展 写真はものの見方を どのように変えてきたか

- 第1部「誕生」 4月2日(土)～5月22日(日)
- 第2部「創造」 5月28日(土)～7月17日(日)
- 第3部「再生」 7月23日(土)～9月11日(日)
- 第4部「混沌」 9月17日(土)～11月6日(日)

会場/3階展示室

- 主催/東京都・東京都写真美術館
- 料金/一般 500(400)円/学生 400(320)円
中高生・65歳以上 250(200)円
※()は20名以上の団体料金
※東京都写真美術館友の会会員は無料

- *3/平井 輝七「月の夢想」1938年
- *4/濱谷 浩「敗戦の日の太陽」高田 1945年
- *5/ウィリアム・ウェグマン「The Indomitable Spirit, Photographers+Friends United Against AIDS」より 1989年
- *6/シンディー・シャーマン「The Indomitable Spirit, Photographers+Friends United Against AIDS」より 1979年

表紙およびP1～4掲載の作品はすべて東京都写真美術館蔵

開館10周年特別企画映像展 超ヴィジュアルー映像・知覚の未来学

Visualize - The history and the futurescape of visual media

2005年4月30日(土) → 6月19日(日)

主催：東京都・東京都写真美術館

- 会場/地下1階映像展示室
- 料金/一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円
- ※()は20名以上の団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

「映像工夫館」では、写真美術館の写真・映画前史から現代作品まで4000点で構築された独自の映像装置コレクションを通して、多数の映像展やワークショップを実施してきました。

写真とそれをとりまく映像分野は、現代美術領域や科学技術を含む文化全体に影響を与え、常に変容する「映像メディア/メディア芸術」の新たな意味が求められています。本展では、紀元前に始まる新旧の視覚メディアを等距離に往来しながら、国内外アーティストによる現代作品の蓄積や現代美術分野に拡張する新たなプロジェクトを中心に構成します。新たな表現・創造のインスピレーションを得るために、その源である映像装置に実際に触れ、そこに繋がる「視覚への欲求」を体験してみましょう。



1. アタナシウス・キルヒャー著「光と影の大きいなる術」(第2版)1671年 2. 横尾 忠則「智は一人のために、一人は皆のために」デジタルテクナメーション 3. フェキナスコープ 19世紀 4. ヨーロッパの幻燈機 19世紀 5. 河口 洋一郎「Artificial Life Metropolis-Cell」

「ヴィジュアルイズすること=視覚への欲求」が私たちがいかにつき動かしてきたかを、5つのサブテーマを通して紹介します。現代作品を各テーマの核に、その背景となる貴重な歴史装置コレクションを象徴的に展示します。

- イリュージョン系** 歪める/変容させる/コラージュする/映す・照らす/繰り返す
- アニメーション系** 動かす/止める/すらす/色を変える/つかまえる
- 3Dバーチャル系** とりまく/飛び出す/触れる/リアルにする/出現させる
- サイエンティフィック系** 拡大する/縮小する/探索する/高精細にする/音をさぐる
- アーカイブ系** 写す/タイムスライスする/記憶する/蓄積する/伝える



2F / 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会
割引

三越カード
割引

アヒカド
割引

2005年1月21日(土) → 2月19日(土)

HEIAN 戸田正寿作品展

SEIJU TODA

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>

- 一般 700(560)円 ○学生 600(480)円
- 中高生・65歳以上 500(400)円
- ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：「HEIAN」展実行委員会
- 共催：東京都写真美術館
- 後援：朝日新聞社
- 協賛：キングプリンティング株式会社/日本写真印刷株式会社/株式会社アマナ/株式会社竹尾
- 協力：Hudson Hills Press/matrix inc.



SUNKEN HEARTH.Plain Wood party gilded,Bamboo,White Carp ©SEIJU TODA

“光”“色”“空気”“優しさ”といった純粋なイメージの連想と、独自の“引き算”というコンセプトによって、より純化された美を表現する「HEIAN」の世界。そこには、どこか東洋の精神意思にも通じる概念を感じさせられます。人工的なライティングは一切使用せず、氏の肉眼を通じて見つめるがごとく撮影した作品たちの数々……。カメラ的シャッターによる視覚とはひと味違った“生”の感覚を、あなたも体験してみませんか？

お問い合わせ：matrix 03-5414-2235

3F 3階展示室
Exhibition Gallery

日本の新進作家vol.3-新花論 On Flowering Images; Contemporary Japanese Photography

友の会
無料

三越カード
割引

アヒカド
割引

主催：東京都・東京都写真美術館

2004年12月25日(土) → 2005年2月6日(日)

- 一般 300円(240円) ○学生 250円(200円) ○中高生 150円(120円)



蓮・花とつぼみ ©Mima Akasaki

東京都写真美術館では、将来性のある作家の発掘と、新しい創造活動の展開の場とすることを基本理念のひとつとし、これまでも積極的に現代写真の展示会を開催し、多くの人々に現代アートの流れを提示してきました。今回はあらゆる芸術のモチーフとされる“花”をテーマに、若手アーティストらの新作を展示いたします。



暮れゆく槍 常念乗越より 1973年10月 © Hotaka Tabuchi



PROFILE / 田淵 行男 (たふち ゆきお 1905~1989)
鳥取県生まれ。日本のネイチャーフォト、山岳写真の先駆的な存在として広く知られる。'51年にプロ写真家としてデビューし、精力的に山岳、昆虫を題材にした写真集やエッセイを発表。主な著書に「尾根路」('58年)「高山蝶」('59年)「山の紋章 雪形」('81年)などがある。

(左) 鳥川の河原にてアシナガバチの観察をする田淵行男

2F / 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会
割引

三越カード
割引

アトレカード
割引

2005年4月23日(土) → 2005年6月12日(日)

生誕百年記念 ナチュラリスト・田淵行男の世界

○ 一般 700(560)円 ○ 学生 600(480)円

○ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都写真美術館 / 田淵行男生誕百年記念事業実施委員会 /
読売新聞東京本社 美術館連絡協議会

協賛：ニコン / ニコンカメラ販売 / SHISEIDO / 富士写真フイルム / 花王
協力：田淵行男記念館

〔社〕企業メセナ協議会認定事業

日本を代表する山岳写真家であると同時に、昆虫生態研究や雪形研究など、カメラによる観察記録を続けたネイチャーフォトの先駆者・田淵行男。当館では、幅広い分野に偉大な業績を残した田淵の生誕百年を記念して「ナチュラリスト・田淵行男の世界」展を開催いたします。

田淵行男は1905(明治38)年に鳥取県黒坂村に生まれ、自然に恵まれた環境で育ちました。その後、大学で博物学を修め、教員として自然の中で学ぶことを実践しながら本格的に山岳写真の撮り始めました。

'45年7月、長野県南安曇郡に疎開をした彼は、終生安曇野の地に定住します。以後、「自然から読み取り学ぶ知識が最も正しい」という独自の信念のもと、壮大な北アルプスと緑豊かな安曇野をベースに、高山蝶やアシナガバチなどの生態を粘り強く観察。その成果は美しい写真と流暢な文章によって記録された「ヒメギフチョウ」、「高山蝶」として結実し、わが国の写真史に今なお燦然と輝き続けています。

本展では作品と共に愛用の写真機材、登山用具、写真集の絵コンテなど約200点を展示し、日本の自然を慈しみ続けた写真家・田淵行男と自然写真の魅力を探ります。



オオイチモンジ羽化 1951年6月 © Hotaka Tabuchi

eyes

07

※写真は全て田淵行男記念館蔵

08

eyes

B1F / 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会 無料
三越カード 割引
アトレカード 割引

2005年2月5日(土) → 3月13日(日)

グローバルメディア 2005
Global Media 2005

詳細ホームページ

<http://www.syabi.com/schedule.html>

「おたく:人格=空間=都市」ホームページ

<http://www.jpif.go.jp/venezia-biennale/otaku/j/>

○一般 300(240)円 ○学生 250(200)円
○中高生・65歳以上 150(120)円
()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催:東京都/財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
平成16年度文化庁メディア芸術祭協賛事業
○共催(予定):国際交流基金/NHKエンタープライズ21 他
○協力:CG-ARTS協会/Technology By Apple
株式会社TGA/株式会社フォトン/
株式会社デジタルスケープ/株式会社インターサイエンス 他



1. 宮島達男+立花ハジメ「1000 Deathclock in Paris」(参考図版・Ars Electronica 2004入賞)
2. 「1000 Deathclock in Paris」オリジナルRFIDカード
3. 「おたく:人格=空間=都市」ホームページより
4. 渡邊英徳「NEIROBO」(参考図版・SIGGRAPH 2004入賞)



海外で活躍する日本人作家やフェスティバルを紹介する第3回「グローバルメディア」では、科学と芸術の融合領域に挑戦する新しい層に向けてメディアアートの新人発掘を行います。シーグラフ、アルスエレクトロニカ25周年、そしてヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展「おたく:人格=空間=都市」の作品紹介や、同時開催の文化庁メディア芸術祭との連携展示・トークやワークショップを通して、ますますエマージングな展開を見せる分野を探ります。

2・3F 2・3階展示室
Exhibition Gallery

平成16年度[第8回]
文化庁メディア芸術祭

○入場無料

2005年2月25日(金) → 3月6日(日)

○主催:文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁・CG-ARTS協会) ○協力:財団法人東京都歴史文化財団/東京都写真美術館ほか
平成9年度から毎年開催されている「文化庁メディア芸術祭」では、Web・ゲーム・CG・インスタレーション・マンガなど、さまざまな分野におけるメディア作品を表彰し、アーティストの創作活動を広く紹介しています。
今回もアート部門、エンターテインメント部門、アニメーション部門、マンガ部門という4つの部門に集った約1,500作品から受賞作品を選抜。大賞や優秀作品を展示・上映するほか、1階ホールを会場に、大賞受賞者らによるシンポジウムや「錦影絵」公演など多彩なイベントを開催します。

<http://plaza.bunka.go.jp> ◎お問い合わせ: CG-ARTS協会内文化庁メディア芸術祭事務局/0120-45-4536

eyes

09

2F / 2階展示室
Exhibition Gallery

友の会 割引
三越カード 割引
アトレカード 割引

2005年3月12日(土) → 4月17日(日)

小林伸一郎写真展
BUILDING THE CHANEL
LUMIÈRE TOWER

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>

○一般 700(560)円 ○学生 600(480)円
○中高生・65歳以上 500(400)円
()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催:シャネル株式会社
○共催:東京都写真美術館



© SHINICHIRO KOBAYASHI
CHANEL GINZA BUILDING Parking lot (B1) 2004

相反する両極の世界に惹かれ、時代に取り残され朽ち果てていく「鉱山」「工場」「学校」「病院」などの廃墟や、完成に向かおうとする「建造物」「高速道路」「ダム」「トンネル」「橋」を被写体にレンズを向けてきた写真家・小林伸一郎。日本中のスクラップ&ビルドを漂流してきた小林が、銀座3丁目にオープンした「シャネル銀座ビルディング」の全撮影を担当。旧ビル解体から完成まで、留まることなく、変容する「シャネル銀座ビルディング」のディテールを650日間に及ぶ密着撮影で写し出しました。本展ではアーティストックなフォトドキュメントに取り組んだ氏の作品を、大型オリジナルカラープリント100点ほかで展示。従来にはない新しい建築写真をご覧ください。

◎お問い合わせ: シャネル(株)PR&イベントグループ 03-5159-5400

3F 3階展示室
Exhibition Gallery

第5回上野彦馬賞
九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

○入場無料

2005年2月11日(金) → 2月19日(土)

○主催:毎日新聞社、九州産業大学
○後援:文化庁、日本写真芸術学会、
東京都写真美術館

日本における写真の開祖上野彦馬の名前をもつ本コンテストは「出てこい、現代の彦馬たち」を合い言葉に第5回を迎えました。今回の上野彦馬賞にはタイ在住の後藤勝さんが、ジュニア大賞には沖縄の金城宏行さんが全国各地と海外を含めて2,365点の応募作品の中から選ばれました。

◎お問い合わせ: 毎日新聞福岡本部事業部/092-724-7203

eyes

10

B1F/ 地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

2005年3月19日(土)→4月24日(日)

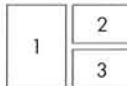
愛知万博スペインパビリオン関連プロジェクト
「Ten Views of Spain—
スペイン現代写真家10人展」

詳細ホームページ <http://www.syabi.com/schedule.html>

- 一般 600(480)円 ○学生 500(400)円
- 中高生・65歳以上 400(320)円
- ()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金
- ※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
- ※第3水曜日は65歳以上無料
- 主催：スペイン万博公団 (Sociedad Estatal para Exposiciones Internacionales)
- 共催：東京都写真美術館
- 協力：Lunwerg

過去25年の民主社会において、スペインが遂げた変貌をテーマにした写真展。クリスティーナ・ガルシア・ロデロ (Cristina Garcia Rodero) など、ドキュメンタリー写真で知られる10人のスペイン人写真家の作品が展示される。彼らのファインダーを通して、今日のスペイン、スペインの街角、人々の生活や習慣、祭りや儀式、ライフスタイルの変化や、過去数十年間の経済や社会の発展と変遷などを収めた作品が集結。創造性や専門知識のレベルの高い写真家たち

による、スペインが経験した20世紀から21世紀への移り変わりの瞬間を一枚一枚に焼き付けた写真が見られる。



1. Navia
2. Isabel Munos
3. Cristina Garcia Rodero

◎お問い合わせ：
(株)新東通信
03-3538-8011



文部科学大臣奨励賞 草野 裕
(5枚組のうちの1枚)

3F 3階展示室
Exhibition Gallery

○入場無料

◎お問い合わせ：
社団法人日本広告写真家協会事務局
03-3543-3387

「APA公募展2005」
第33回社団法人日本広告写真家協会公募展

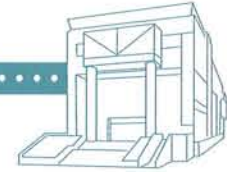
2005年3月12日(土)→3月27日(日)

全国から応募され厳選された100余点の入賞作品、それは明日の広告写真を予感させるイメージの集合です。

eyes

11

10th Anniversary



2005年1月21日、東京都写真美術館は開館10周年。

東京都写真美術館は、恵比寿ガーデンプレイス内に開館して以来10年間、たくさんの方々にご来館頂き、支えられて参りました。連載4回目となる「Zoom Up! 写美」では、当館の誕生と活動の歴史をふり返ってみました。

ZoomUp! 写美Vol.4 写真美術館の誕生
A story about the birth of TMMP



恵比寿駅から来ると、大きな壁面写真が鑑賞気分を盛り上げる

東京都写真美術館が開館したのはいまから10年前。90年6月の一次施設開館を経て、95年1月21日にスタートしました。現在、日本は「写真大国」とよばれるほどカメラが普及し、生活の中にも写真が浸透しています。しかし、当時はそれに相応しい文化施設がありませんでした。そこで、1979年に「日本写真美術館設立促進委員会」が発足。写真界の有志の方が中心となり、積極的な運動を展開しました。その後、87年春に東京都が都長期計画事業の一環として、写真映像文化施設の建築構想を打ち出し、この運命ともいえる結びつきが、日本で唯一、世界でも数少ない写真と映像を専門とする総合的な公立美術館、東京都写真美術館の誕生を実現させたのです。館内では

映像文化と写真のセンター的役割を果たす新たなステージとして様々な展覧会を開催しています。日本・世界の写真史に残る貴重な作品や、芸術的に優れた作品を独自の視点や蓄積された研究を通じて展示しております。日本人作家の作品が収蔵作品の70%を占めるということも大きな特徴といえるでしょう。情報発信都市・東京に居を構えながらも、水と緑に囲まれた恵比寿ガーデンプレイス内に位置することから、オフィス、ホテル、デパートにも近く、ファッションやアートに興味のある熱心な観覧者の方々にも支えられて参りました。鑑賞するだけでなく、皆さまとのコミュニケーションを図るため、参加型のワークショップも行っています。ワークショップでは、写真で表現できるものを楽しみながら学び、発見する場所として多くの方々にご利用いただいております。

写真が氾濫する現在。だからこそ、より深く写真に親しみ、そこから感じるものが、生活に新たな豊かさを与えてくれるとすれば、なんと素敵なことでしょう。

東京都写真美術館はこうした喜びを体感できる美術館をめざし、今後も写真・映像文化の普及活動に力を入れてまいります。

当館はJR恵比寿駅から日差しや雨を気にせずにご来館いただけます。スカイウォーク終点の恵比寿ガーデンプレイス インフォメーションブースにて通路マップをお配りしています。



NADIFF x 10

◎お問い合わせ：
「ナディップ バイテン」/
直通 03-3280-3279
◎新商品や入荷情報などは
ホームページでもご紹介しています。

1F ミュージアムショップ「ナディップ バイテン」
www.syabi.com/shop/shop.html



Album

卒業や異動の季節、大切な思い出が詰まった写真はきちんとプリントして、個人的なアルバムに残してみたいかがでしょうか。

chambre claire

◎お問い合わせ：
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218

1F 2F カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html



2F FLOOR

観覧の途中にお茶はいかが？ 天井まで続くガラス窓から太陽の恵みが燦々とこぼれる2階エントランスホールのカフェは、開放感溢れる明るい空間として人気です。

12

eyes

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

当館では「写真美術館で観る映画シリーズ」と題し、選りすぐりの作品を上映しています。
美しい映像と心にしみる感動をお楽しみください。



シリーズ
Vol.14 **サンサーラ**

- 2004年/フランス映画/118分
- 監督・脚本・撮影・音楽：ジークフリート
- 提供：ジェネオン・エンタテインメント
- 配給：ザナドゥー
- 配給協力：レゾナント・コミュニケーション

詳細ホームページ <http://xanadeux.co.jp/sansara/>
◎お問い合わせ：ザナドゥー/03-3288-3300

フランスの若き鬼才、ジークフリートが描く
世界中を自由に駆け巡る青年“サンサーラ”の物語

パリ・モンマルトル。テルトル広場に日々集まる観光客を相手に、毎日彼らの似顔絵を描く青年がいた。彼の名はサンサーラ。サンクリット語で「輪廻」を意味する“サンサーラ”になんで名づけられた。ある日、サンサーラは世界を放浪する旅に出る。やがて、ふらりと辿り着いた国スペインでヴァイオリン奏者で指揮者のクリックと出会ったサンサーラは、世代を超えたこの偉大な友と世界中を駆け巡る。自らも放浪者、そしてフォトグラファー、ミュージシャンである鬼才、ジークフリートが送る一大アート作品。日本を含む全14カ国に渡るロケで描いたサンサーラの旅を、ジークと天才ヴァイオリニスト、イヴリー・ギトリスの素晴らしいハーモニーが彩る。



- 上映スケジュール：1月29日(土)～2月20日(日)
- 休映日：月曜日(休日の場合は翌日)
- 上映時間：11:00/13:00/16:00/18:30
- 料金：一般 1,800円 学生 1,500円
中学生以下・シニア 1,000円



シリーズ
Vol.15 **天上草原**

- 提供：オメガプロジェクト/ニューウェイブ
- 配給：オムロ
- 配給協力：レゾメント・コミュニケーション

◎お問い合わせ：オムロ/03-5206-6371

言葉を封じられた少年が訪れたのは深緑の大草原。
大地のエネルギーと人々の愛が、傷ついた彼の心を癒していく。これは内モンゴルから届いた珠玉の物語

心に深い傷を負い、失語症に陥ってしまった漢族の少年・フーズ(虎子)は、草原に暮らす男女の元にやって来た。やがて、大地のエネルギーとモンゴルの人々の素朴で寛容な民族性に癒されたフーズは、徐々に障害を克服していく…。
モンゴルの人々の暮らし、祖国や草原への愛情を描いて大反響を呼んだ本作品は、国内の映画賞を独占。人間愛に溢れたモンゴル草原の中で、言葉を封じられた少年が逞しく成長していく姿と、彼を温かく包む男女が家族として結ばれていく過程を描いた珠玉の感動作です。

- 上映スケジュール：3月12日(土)～4月22日(金)
- 休映日：月曜日(休日の場合は翌日)
- 上映時間：10:30/13:10/15:50/18:30
- 料金：一般 1,800円 学生 1,500円 中学生以下・シニア 1,000円

維持会員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

※詳しくはHPをご覧ください。http://www.syabi.com/Membership.html

- | | | | |
|---|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●特別維持会員 キヤノン株式会社 株式会社資生堂 東京電力株式会社 凸版印刷株式会社 株式会社リコー ●維持会員 株式会社アサツーディ・ケイ 旭化成株式会社 朝日新聞社 朝日生命保険相互会社 アサヒビル株式会社 朝日放送株式会社 アップルコンピュータ株式会社 株式会社イトーヨーカ堂 エスエス製薬株式会社 株式会社NHKエンタープライズ21 NTTコミュニケーションズ株式会社 株式会社NTTドコモ 株式会社大林組 オムロン株式会社 オリンパス株式会社 株式会社オンワード樞山 科研製薬株式会社 カシオ計算機株式会社 鹿島建設株式会社 株式会社角川書店 カートレック株式会社 カルピス株式会社 キッコーマン株式会社 キヤノン販売株式会社 共同印刷株式会社 社団法人共同通信社 協和発酵工業株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> 麒麟ビール株式会社 株式会社講談社 株式会社コーセー コダック株式会社 株式会社コングレ 株式会社ザ・アール サッポロホールディングス株式会社 株式会社アサツーディ・ケイ 三共株式会社 産経新聞社 サントリー株式会社 ジェイティービー印刷株式会社 株式会社実業の日本社 清水建設株式会社 株式会社写真弘社 シヤネル株式会社 株式会社集英社 株式会社主婦と生活社 株式会社小学館 松竹株式会社 信越化学工業株式会社 株式会社新潮社 セイコー株式会社 セイコーエプソン株式会社 セントラル警備保障株式会社 ソニー株式会社 第一建築サービス株式会社 大成建設株式会社 大日本印刷株式会社 株式会社竹中工務店 株式会社タムロン 株式会社丹青社 中外製薬株式会社 株式会社テー・オー・ダブリュー | <ul style="list-style-type: none"> 株式会社テレビ東京 株式会社電通 東亜建設工業株式会社 東海旅客鉄道株式会社 東京ガス株式会社 東京急行電鉄株式会社 東京工芸大学 東京新聞・中日新聞社 東京総合写真専門学校 東京テアトル株式会社 株式会社東京ドーム 株式会社東芝 株式会社東北新社 株式会社徳間書店 図書印刷株式会社 戸田建設株式会社 トヨタ自動車株式会社 株式会社ニコン 日産自動車株式会社 日本オラル株式会社 日本経済新聞社 日本興亜損害保険株式会社 社団法人日本広告写真家協会 社団法人日本写真家協会 日本写真芸術専門学校 日本写真作家協会 社団法人日本写真文化協会 日本信販株式会社 日本大学芸術学部 日本たばこ産業株式会社 日本テレビ放送網株式会社 日本ハム株式会社 日本ビルサービス株式会社 日本放送協会 | <ul style="list-style-type: none"> 日本油脂株式会社 日本リーバ株式会社 株式会社博報堂 株式会社バンダイ びあ株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 株式会社ファーストリテイリング 株式会社ファンケル 富国生命保険相互会社 富士重工業株式会社(スバル) 富士ゼロックス株式会社 株式会社フジテレビジョン 株式会社ブリヂストン 株式会社プリンスホテル 株式会社フレームマン 株式会社ベネッセコーポレーション ベンタックス株式会社 株式会社ホテルオークラ 株式会社堀内カラー 本田技研工業株式会社 毎日新聞社 株式会社マガジンハウス 松下電器産業株式会社 丸善株式会社 三井倉庫株式会社 森ビル株式会社 モルガン・スタンレー証券会社 モンブラン ジャパン 株式会社 横河電機株式会社 読売新聞社 ライオン株式会社 株式会社ワコール |
|---|---|---|--|

(平成16年12月現在・五十音順)

4F Library 図書室

東京都写真美術館4Fの図書室は、蔵書点検のため下記の日程で、休室させていただきます。あらかじめご了承ください。



図書室休室のお知らせ
蔵書点検による休室期間：
2月20日(日)～24日(木)
3月7日(月)～11日(金)

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時会員の募集をしています。写真美術館ニュース eyesの送付をはじめ、たくさんの特典、割引がございます。開館時間中(10:00～18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員(同伴者1名まで)	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
- ※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099